

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2090900057		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイのほほえみ伊那		
所在地	長野県伊那市境 1845		
自己評価作成日	平成21年11月9日	評価結果市町村受理日	平成22年3月31日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2090900057&amp;SCD=320">http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2090900057&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マズネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市両島7-1 オフィス松本堂2A		
訪問調査日	平成21年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その方の得意な事柄や、それまでの歴史を大切にしながらお一人おひとりの思いをよく把握して、お互いに楽しんでいけるように努めております。月2回行事することを目標にしてみました。お料理やバイキング料理は皆さんが大好きな行事です。お料理の得意な方がたくさんいらっしゃるので活躍していただいております。ご家族とは気がついた事、気にかかるような事、近頃の様子などお知らせしております。意見を頂いたことは、スタッフ全員で話し合い、ケアに活かしております。これからもご利用者様と一日一日を大切に、素敵な時間を作って行きたいと思えます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営規程に「事業所の立地」という条文を設け、その条件を「家族や地域住民との交流の機会が確保される地域の中」としており、交通量の多い道路から離れ、周りは田圃・畑・住宅、遠方には馴れ親しんだ駒ヶ岳・仙丈岳が眺められる位置に事業所を作り、認知症の利用者が「ほほえみ」を絶やさず、安心して暮らしていける、温かな家づくりを目指している。職員は徹底した教育の下、言葉は丁寧であり、態度は利用者の尊厳の保持に配慮し、一人ひとりの思いに寄り添う対応であり、好感が得られた。月1回開催するホーム会議とユニット会議、9委員会、毎月テーマ(顧客満足度、プライバシー保護等)を決めて行う研修会など、常に利用者を念頭に置き、職員としての資質の向上を図っている。介護職は利用者の暮らしを、そっとお手伝いするために存在し、どうい介護をしたら周辺症状が解決されるのか専門的に考えていく存在であると位置づけている。管理職と職員との良好な関係をバネにして、よりレベルの高い介護を実現するために、さらなる工夫をされることを望みます。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(駒ヶ岳)			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
ユニット名( 仙丈 )			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人・ホームの理念をフロア・会議室・休憩室に掲示、ホーム会議・朝礼で唱和し理念の共有化に努めている。	一人ひとりの人生と暮らしを大切にして、利用者と一緒に作る温かな家を目指した法人の理念と事業所独自の理念をフロア等の見やすい位置に掲げ、朝礼等で唱和しながら職員への共有化を図ると共に、実践の場に繋げている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム内の行事に参加して頂いたり、散歩のコースに立ち寄り頂くよう働きかけ、交流の場を作っている。 夏休みのラジオ体操の会場として敷地内を利用頂いたり、地区の文化祭にも出品させて頂いている。	散歩時の挨拶、野菜などのおすそ分け、子供連れの家族が事業所に気軽に立ち寄り、小学生のラジオ体操の場所として活用して頂いたり地域の中に溶け込んだ付き合いをしている。地区の文化祭に参加したり、事業所の行事に招待したり、傾聴ボランティアを受け入れたりと双方向的な交流をしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご利用者に迷惑のかからない範囲内で必要に応じて事業所の特質を活かした広報を心がけている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で頂いた意見を職員全員で共有して、サービス向上に向け話し合い取り組んでいる。	年6回事業所で開催し、事業所の現状、評価、事象事例、多様な要望・意見なども議題として提出され事業所のありのままを理解してもらえるよう取り組んでいる。委員からの発言も多く、双方向的な会議となっている。委員に任期の長い民生委員を加えることも会議の継続性を保つには良いと感じられた。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じ報告連絡相談を実施している。ご意見に対してはすぐ検討し実施するようになっている。	行政へは事業所の現状の説明や相談をしたり、アドバイスを頂いたりして協力関係を築くよう努めている。事業所や認知症理解のため、気軽に事業所を訪ねてもらえるよう、事業所として積極的に声掛けをすることも一考かと思われる。	

外部評価結果(ニチイのほほえみ伊那)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常的にケアにおいて問題があればその都度指導し、会議等で全職員に共有し取り組んでいる。 現在夜間のみ玄関の施錠しており、居室の施錠はしていない。	身体拘束廃止委員会を設けて職員の意識改革を積極的に行い、日頃より厳しく指導し、抑圧感のない暮らしの支援に対する職員への十分な共有化が出来ていた。見守りや連携プレーに力を入れたり、外に出たい利用者には一緒に付き添うなど、一人ひとりの思いに寄り添いながら事故の起きないように取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の身体や精神面の変化に常に気を配り、小さな変化も必ず報告する様、職員全員に指導している。 また報告書に作成と共にカンファレンスをする事で風通しをよくしている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度を利用されている利用者がいる。学ぶ機会が必要だと考え、11月中に勉強会を実施する予定。 以降も必要の有無に関わらず引き続き機会を作っていくたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時・契約書取り交わし時に書面に添ってご説明し、疑問点・不明点を確認している。 また後日気付いた点等あった場合、お知らせ頂ける様お願いしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会等の機会にご家族とコミュニケーションを取り、率直なご意見等頂ける様働きかけている。頂いた意見・苦情等は早急に共有し解決に向けて話し合う様にしている。自治体・県相談窓口を施設内・重要事項説明書に掲示し、事業所内にも窓口のある事をお知らせしている。	月に1度、日々の暮らしぶり等の報告や便りの発行を行い、面会時には率直な意見を頂けるよう努めている。苦情受付については掲示をし、都度話すようにしている。頂いた意見は会議等で話し合い、速やかに対応するよう取り組んでいる。家族会を有効活用して意見等を気軽に言える環境作りをすることを望みます。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議で発言する場を設けたり、個々に面談を行っている。 日頃から職場内で意見を言いやすい環境作りに取り組んでいる。	ユニット会議やホーム会議の場や個人面談の場を設けるなど、職員が意見を言い易いように取り組んでおり、管理者と職員とのコミュニケーションは良く取れていた。現場での悩みの相談、勤務表での希望の受け入れなど相互の信頼関係が成り立っていた。	

外部評価結果(ニチイのほほえみ伊那)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談をしていただきたいです。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じ、法人内研修の受講を実施している。 また他の研修についても受講できるよう情報を提供し、希望者については受講の応募や日程に協力している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービスの質を向上させる為、勉強会やネットワーク作りにもっと真剣に取り組んでいきたい。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接・相談から得た利用者についての情報を共有し、安心して過ごして頂ける環境作りを心がけている。 日常においてもよくコミュニケーションを取り、訴えを聞き取るように努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接・相談において不安や困った事等をよく伺い、要望・状況に基づいたプラン作りに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居理由等しっかり伺い、その方にとって一番よいサービス方法のひとつをお話させて頂いている。		

外部評価結果(ニチイのほほえみ伊那)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常においてよくコミュニケーションを取ると共に必要に応じてスキンシップをはかり、協力しながら生活を共に築いていく姿勢に努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常にご家族の話に真剣に耳を傾け、お互いに手を取り協力しあってご本人を支えていける関係性を築いている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や馴染みの方との時間を出来る限りとって頂ける様、プランに取り入れている。 また外泊・外出の時間等を指定する事なく、楽しい時間を過ごして頂いている。	知人や友人が訪ねて来たり、毎年年賀状作りをしたり、電話や手紙は希望により、何時でも出来るよう支援し、馴染みの方との時間が取れるような介護計画を作成したりと馴染みの関係が継続できるよう努めている。ご家族の付き添いによる墓参りや買い物なども制限なく、自由に出来るよう支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや生活の中でそれぞれの役割を持って頂ける様支援し、協力し助け合う中でお互いに認め合える様な交流が出来る様、支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お手紙を差し上げる等、柔軟な対応に努めている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全員がご利用者ひとりひとりに寄り添い希望や意向を十分理解できるよう努めている。 また会議等ではよく話し合われている。	センター方式による基本情報などの把握が充分に出来ており、一人ひとりに寄り添って、希望や意向に耳を傾け、個々の情報を持ち寄り、会議等で十分に話し合いながら、利用者の望む暮らしが実現できるよう取り組んでいる。	

外部評価結果(ニチイのほほえみ伊那)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前のアセスメントにより得たご利用者それぞれの情報を全職員で共有している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的に検討し、現有機能を活かした支援に努めている。 身心状態について都度細かに申し送り、職員全員が把握し、安心して生活して頂ける様支援している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者がより安心して暮らして頂ける様、カンファレンスでの意見やご家族の要望・意見も取り入れた介護計画書を作成、計画書に基づいた支援をしている。 また、必要に応じて都度カンファレンスを行い、現状に添った計画書を作成している。	センター方式による基本情報等を土台にして、アセスメントを行い、介護計画を作成している。ご家族には面会時などに説明し了解を得ている。設定期間ごとのプランの見直し、整理された介護記録を下に心身の変化を的確にとらえての臨機応変の見直しも行われていた。課題分析から評価までの書類が良く整備されていた。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者の日々の様子を個別に記録している。 特別な事があった場合は申し送りをし、職員間で情報を共有してその日の状態に合ったケアを行っている また状況によっては早急にカンファレンスを行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	許される範囲内で柔軟な態勢でニーズに応えている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中に出掛ける機会を作ったり、ホーム内の行事に参加して頂ける様声をかけ、理解を深めて頂ける様努めている。		

外部評価結果(ニチイのほほえみ伊那)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回提携医に訪問診療して頂いている他に、ご家族希望のかかりつけ医には適宜受診して頂いている。 医療機関同士で連絡を取り合っており、訪問診療の経過、ホームでの様子について家族に連絡している。	利用者のご家族の希望するかかりつけ医とし、受診の付き添いはご家族が行うことを入居時に了解を得ている。協力医療機関からは月2回の訪問診療を受けており、診療経過や様子はご家族に報告している。なお、協力医療機関への受診の付き添いは職員が行っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療時の記録をしている。 受診時や看護師訪問の際は『訪問診療記録』に基づいて状態を報告し、受診後はその様子等を記録し全職員に申し送っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院と提携医で利用者の様子について連絡を取り合っている。 ケアマネジャー・ホーム長が病院訪問し情報交換を行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は頻りにカンファレンスを行い、状態に応じたケアに努める様になっている。終末期ケアについては、心構え、やるべき事を職員間で周知徹底している。ご家族との話し合いの場を設け、ホームに求められる事、ホームに出来る事を明らかにしている。	重度化や終末期対応への方針があり、ご家族と話し合い、同意を得ている。ご家族・医師・職員等の理解を得て、チームで支援していくことが共有化された中で終末期対応を行った経験を持っている。利用者やご家族の揺れ動く心の変化の度に、話し合いを重ね、安心し、納得して最後を迎えらるよう取り組んでいる。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が積極的に普通救命講習・上級普及員講習等受講し実践力を身につけている。 急変に対して『緊急対応マニュアル』をフロア内に掲示すると共にケアスタッフマニュアルに記された対応を熟読し実践出来る様努めている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に対して緊急連絡網を作成し対応人員を明確にしている。 消防署立会いのもとに避難訓練年2回実施し、問題点を指摘して頂く等、速やかに避難できるよう改善を心がけている。	年2回避難訓練を実施し、地域住民や消防団との協力体制も出来ている。消防署の指導を受け、地域の消火栓取り扱いの訓練に参加し、自動通報装置などの防災設備も整い、災害への備えは出来ていた。2階に1ユニットあり、特に夜間の不安は大きいので、避難誘導のイメージトレーニングを頻度よく行うことを望みます。	



外部評価結果(ニチイのほほえみ伊那)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮した声かけを行い、敬語でお話する様徹底統一している。 個人情報書類の破棄にはシュレッダーを使用している。	笑顔を大切に。優しい声掛け。自分が言われていやなことは言わない。介護をさせて頂いている。などの職員の言葉に尊厳の保持やプライバシーに配慮した言動が徹底していることが感じられた。個人の書類は書庫に保管し、破棄する場合はシュレッターにかけている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意志を引き出せる様な声かけや、思いや希望を表せるような環境作りに努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の意思を尊重し、体調に合わせてそれぞれのペースで毎日をご過ごして頂ける様支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪を梳かす、髭剃り等できる事はして頂き、ご本人の希望に添った支援をしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご希望をお聞きしてお好きな物や馴染みの料理を取り入れ、下ごしらえや器の準備等一緒に頂いている。 またおやきやおはぎ等手作りの行事を企画して活躍の場を作り、楽しみながら食事をして頂ける様工夫している。	調理の下準備から食器拭きまで、その日の体調や様子を見て、又、料理の得意な利用者も居るので、その方の活躍の場ともしたりしながら、出来る範囲で職員と一緒にやって行っている。おやき・おはぎなど利用者にとって馴染み深いものを取り入れたり、頂いた野菜を利用するなど食事が楽しみとなるよう工夫している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人のペースで水分が摂れる様に、ゆっくり時間をとる、お好きな飲み物を選んで頂く、時間に拘らずこまめに声かけする等の工夫をしている 体調によりメニューや食事の形態を変更するなど状況に応じて都度対応している。		

外部評価結果(ニチイのほほえみ伊那)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	提携歯科医の指導の下、個々に合わせた口腔ケアを毎食後行っている。 また必要に応じてアイスマッサージ等行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を活用し、個人の排泄パターンや習慣に合わせた声かけ、誘導、介助を行い、出来る限り自立での排泄が続けられる様支援している。	入居時にバルーンをしていた利用者が自立となったり、排泄パターンに沿った、尊厳を傷つけない声掛けや誘導をするなど排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、乳製品等摂って頂くようにしている。 水分の摂り辛い方にはゼリー等で摂取して頂いている。 また食事にも繊維質の多い食材を取り入れたり体操行う等予防に努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の体調や様子に配慮しながら出来る限り希望に添って入浴して頂いている。 気乗りのしない日は手浴・足浴を勧めたり入浴剤を使用する等気分転換をして頂ける様工夫している。	利用者の希望により、何時でも、午後、365日入浴出来るよう支援しており、毎日入浴する利用者も居るが、平均して1日2~3名、1人週2~3回となっている。重度者には2人対応している。季節感を味わえる菖蒲湯や気分転換としての入浴剤なども取り入れて、入浴が楽しみとなるよう支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、天候や状態に応じて、外気浴・レクリエーション等の参加の声かけをしている。 それぞれにお好きな事をして頂き、気分転換を図るなど、安眠休息の為の個別の援助に努めている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は服薬マニュアルに従って管理しており、提携薬局より都度指導頂き、薬担当者が申し送り全職員が理解できる様努めている。 また症状の変化等について提携医と連携をとり、確認に努めている。		

外部評価結果(ニチイのほほえみ伊那)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者それぞれの特技や趣味を活かせるように支援している。 また毎月2回程誕生日会やお楽しみ会を計画し、準備から協力して行事を盛り上げて頂き、気分転換出来る様支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望がある時は積極的に出かけたり、季節や職員からの声かけで戸外に出かける機会を作る様に努めている。 またご家族の協力を得て出かけられる様支援している。	事業所周辺の散歩、天候に応じての外気浴、買い物外出、高遠公園の花見や祭り見物、春日公園、紅葉狩り外出など気分転換や五感の刺激としての外出や季節に応じての外出など、出来るだけ戸外に出かけられるよう支援している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に一括管理させて頂いているが、ご本人の希望や必要に応じて買い物等に出かけ、ご自身でお支払して頂けるよう援助している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時はいつでもご家族や大切な方と電話・手紙のやり取り出来るように援助している。 また毎年フロアで年賀状を手作りし、ご本人の自筆でご家族に送らせて頂いている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快や混乱を招くような事のないように極力配慮している。 係が中心となって、生活感や季節感を取入れた装飾等を行い、居心地よく過ごして頂けるよう工夫している。	居間・食堂・台所が一体のフロアとなり、調理の音や匂いが感じられ、畳の部屋、ウッドデッキがあり、採光もよく、騒音もなく、整理整頓が行き届いていた。周囲の壁には季節感を取り入れたブドウや栗などの飾り物があり、利用者の作品が飾られ、懐かしさや利用者の思いが取り入れられた暮らしが感じられた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご希望を伺ったり、ご本人の様子によって声かけするなどして、一人ひとりが思い思いに過ごして頂ける様心がけている。		

外部評価結果(ニチイのほほえみ伊那)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者、ご家族と相談して、使い慣れた物や家具を置くなど、馴染みある居心地よい環境作りの工夫に努めている。	居室は収納スペース以外は全て、利用者のご家族の思い思いの馴染みの物を配置できるようになっており、ベッド・寝具・物入れ・位牌・写真・飾り物が置かれ、自宅で暮らしていた環境に近い居室作りが出来ていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行や移動の妨げになる物、危険だと思われる物は取り除くなど安全に配慮しながらご本人の意思で出来る限り自立した生活出来る様援助している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の経営理念と当グループホーム独自の理念も掲げて運営している。	一人ひとりの人生と暮らしを大切に、利用者と一緒に作る温かな家を目指した法人の理念と事業所独自の理念をフロア一等の見やすい位置に掲げ、朝礼等で唱和しながら職員への共有化を図ると共に、実践の場に繋げている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	文化祭に利用者の作品を出品したり文化祭へ出かけたり、ラジオ体操の場として子ども会に庭を提供している。	散歩時の挨拶、野菜などのおすそ分け、子供連れの家族が事業所に気軽に立ち寄り、小学生のラジオ体操の場所として活用して頂いたり地域の中に溶け込んだ付き合いをしている。地区の文化祭に参加したり、事業所の行事に招待したり、傾聴ボランティアを受け入れたりと双方向的な交流をしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	必要に応じて必要な空間や物品を役立ててもらうように、区に広報している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当ホームの活動状況の説明や今後のスケジュールのお知らせなどのほかに地域の方々とどんな関係を作っていけるかなど話しあっている。	年6回事業所で開催し、事業所の現状、評価、事故事例、多種の要望・意見なども議題として提出され事業所のありのままを理解してもらえるよう取り組んでいる。委員からの発言も多く、双方向的な会議となっている。委員に任期の長い民生委員を加えることも会議の継続性を保つには良いと感じられた。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	困った事だけでなく、常に助言やアドバイスを頂くようにしている。	行政へは事業所の現状の説明や相談をしたり、アドバイスを頂いたりして協力関係を築くよう努めている。事業所や認知症理解のため、気軽に事業所を訪ねてもらえるよう、事業所として積極的に声掛けをすることも一考かと思われる。	

外部評価結果(ニチイのほほえみ伊那)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を設置し、勉強会をしたり常日頃より厳しく指導をしている。	身体拘束廃止委員会を設けて職員の意識改革を積極的に行い、日頃より厳しく指導し、抑圧感のない暮らしの支援に対する職員への十分な共有化が出来ていた。見守りや連携プレーに力を入れたり、外に出たい利用者には一緒に付き添うなど、一人ひとりの思いに寄り添いながら事故の起きないように取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会、勉強会などして、意識を持つようにして防止につとめている。又、日頃よりお互いに注意をし合っている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	11月末に、勉強会をします。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書や重要事項説明書にもとずいて、十分な説明をしています。それ以外でもきずいた不明な点も常に受け付けております。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に事業所内、自治体、県の苦情相談窓口を記載している。頂いた苦情、意見などは会議や委員会で検討して、運営に活かしている。	月に1度、日々の暮らしぶり等の報告や便りの発行を行い、面会時には率直な意見を頂けるよう努めている。苦情受付については掲示をし、都度話すようにしている。頂いた意見は会議等で話し合い、速やかに対応するよう取り組んでいる。家族会を有効活用して意見等を気軽に言える環境作りをすることを望みます。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面談をもち、職員からの声を吸い上げている。出た意見はユニット会議で検討している。また、ホーム会議でも、職員の意見を検討していくように努めている。	ユニット会議やホーム会議の場や個人面談の場を設けるなど、職員が意見を言い易いように取り組んでおり、管理者と職員とのコミュニケーションは良く取れていた。現場での悩みの相談、勤務表での希望の受け入れなど相互の信頼関係が成り立っていた。	

外部評価結果(ニチイのほほえみ伊那)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p><b>就業環境の整備</b>                      代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	各自が向上心をもって働けるように定期的に面談を行ってほしい。		
13		<p><b>職員を育てる取り組み</b>                      代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	支店での研修への参加、外部研修開催の広報をしている。		
14		<p><b>同業者との交流を通じた向上</b>                      代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	研修会、講習会など、勉強会への機会の広報を掲示している。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p><b>初期に築く本人との信頼関係</b>                      サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	入居前に面談をして利用者、家族、担当CM、担当医、関わった介護事業所の関係者から頂いた情報を入居判定会議で情報を共有している。		
16		<p><b>初期に築く家族等との信頼関係</b>                      サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	入居時の面談で家族の不安、要望をお伺いしてアセスメントシートに記入している。またその情報をケアプランに反映し、全スタッフがプランに、基ずいたケアにつとめている。		
17		<p><b>初期対応の見極めと支援</b>                      サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	利用者や家族の状態をうかがい、場合によっては他の施設の入所方法の提案をしている。		

外部評価結果(ニチイのほほえみ伊那)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に喜び、共に励ましあい、いろんなことや、気持ちを共有して、信頼関係を結べるようにつとめている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来られた際に食事の介助をして頂いたり、日頃の様子や身心状態をお伝えしている。 また月に一度手紙で近況をお知らせしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常生活の中で過去の記憶や思い出をお聞きし共有共感出来る様努めている。	知人や友人が訪ねて来たり、毎年年賀状作りをしたり、電話や手紙は希望により、何時でも出来るよう支援し、馴染みの方との時間が取れるような介護計画を作成したりと馴染みの関係が継続できるよう努めている。ご家族の付き添いによる墓参りや買い物なども制限なく、自由に出来るよう支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの立場を把握しご利用者同士がうまくコミュニケーションが取れるよう支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お手紙を差し上げる等して関係性を大切にしている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望・意向に耳を傾け、自分らしく生活して頂ける様支援している。	センター方式による基本情報などの把握が充分に出来ており、一人ひとりに寄り添って、希望や意向に耳を傾け、個々の情報を持ち寄り、会議等で十分に話し合いながら、利用者の望む暮らしが実現できるよう取り組んでいる。	



外部評価結果(ニチイのほほえみ伊那)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時に、頂いた情報をファイルにとじて、ユニットのスタッフ全員で情報共有している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常日頃、お客さまの状態をよく観察し少しでも変化があれば、ユニットでカンファレンスや話し合いを持ち、現状の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や、利用者の希望していることが、埋もれてしまうことのないように定期的にカンファレンスを開いてケアプランに反映している。	センター方式による基本情報等を土台にして、アセスメントを行い、介護計画を作成している。ご家族には面会時などに説明し了解を得ている。設定期間ごとのプランの見直し、整理された介護記録を下に心身の変化を適格にとらえての臨機応変の見直しも行われていた。課題分析から評価までの書類が良く整備されていた。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の個別の介護記録を作成し、日々の様子を記録していくことで情報共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々、要望や、必要性が生じたときはありとあらゆる方法を考え、柔軟な取り組みを持って支援している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩に出かけたとき、近所の方と挨拶を交わしたり四季の風景を楽しんで頂いたり、傾聴ボランティアさんとお話をたのしんでいただいている。		

外部評価結果(ニチイのほほえみ伊那)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及びご家族の希望を尊重して、日常での健康状態を把握して早期手当て、治療、回復をしていただけるように情報提供をして受診していただいている。	利用者のご家族の希望するかかりつけ医とし、受診の付き添いはご家族が行うことを入居時に了解を得ている。協力医療機関からは月2回の訪問診療を受けており、診療経過や様子はご家族に報告している。なお、協力医療機関への受診の付き添いは職員が行っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な訪問診療や、突発的な受診のとき利用者の健康、メンタル面、気になることなど伝え相談して、把握していただき、いつでも適切な受診が受けられるように支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に病院関係者に情報をお伝えしたり、相談に乗っていただいたり、他の病院への紹介状を書いていただいたり又、退院後の受診も安心してできるように関係を築いている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の希望やご本人の願いが叶う様医療と連携をとりながら安楽な生活をして頂ける様支援している。	重度化や終末期対応への方針があり、ご家族と話し合い、同意を得ている。ご家族・医師・職員等の理解を得て、チームで支援していくことが共有化された中で終末期対応を行った経験を持っている。利用者やご家族の揺れ動く心の変化の度に、話し合いを重ね、安心して、納得して最後を迎えられるよう取り組んでいる。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新人職員が多い為、速やかに救命講習を受講した職員より研修を受け実践力を身につけている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行いそれぞれのご利用者への避難方法を話し合い、地域にも協力して頂ける様お願いし、協力体制を築いている。	年2回避難訓練を実施し、地域住民や消防団との協力体制も出来ている。消防署の指導を受け、地域の消火栓取り扱いの訓練に参加し、自動通報装置などの防災設備も整い、災害への備えは出来ていた。2階に1ユニットあり、特に夜間の不安は大きいので、避難誘導のイメージトレーニングを頻度よく行うことを望みます。	

外部評価結果(ニチイのほほえみ伊那)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの言葉がけに敬語を使い人格や性格を尊重して、誇りやプライバシーを、損ねないこえかけに努めている。	笑顔を大切に。優しい声掛け。自分が言われていやなことは言わない。介護をさせて頂いている。などの職員の言葉に尊厳の保持やプライバシーに配慮した言動が徹底していることが感じられた。個人の書類は書庫に保管し、破棄する場合はシュレッターにかけている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が、イエス、NOといえる声かけをするように努めている。希望の献立、レク、などを聞いて自己決定できるように、している。家族		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	カンファレンスや会議、勉強会で話しあいをもっている。常に職員は黒子の存在で主役はお客様である。その方のペースで過ごしていただけるようにつとめている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節、陽気、気分、日々とご本人と相談して確認を取りながら楽しみとして支援している。理容、美容は外部の訪問美容師さんに来ていただいたり、家族とでかけたりしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お好きな食べ物を聞いたりして、献立に役立てている。その日の体調や、様子を見てできることをおねがいしている。	調理の下準備から食器拭きまで、その日の体調や様子を見て、又、料理の得意な利用者も居るので、その方の活躍の場ともしたりしながら、出来る範囲で職員と一緒にやって行っている。おやき・おはぎなど利用者にとって馴染み深いものを取り入れたり、頂いた野菜を利用するなど食事が楽しみとなるよう工夫している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	工夫をして、できるだけ水分を取っていたりするようにつとめています。拒否される方にはゼリイ、ヨ-グルトなどお勧めしている。又、その方の嗜好も大事にして医者からの、指導がない限りお好きなものを提供している。		

外部評価結果(ニチイのほほえみ伊那)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本的には、毎食後に口腔ケアをその方に応じた方法で支援している。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	表やその方の様子から排泄パターンを知り、個人にあわせ尊厳を傷つけないこえがけを心かけている。	入居時にバルーンをしていた利用者が自立となったり、排泄パターンに沿った、尊厳を傷つけない声掛けや誘導をするなど排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ケアプランにも組み入れられ、その方に応じたやり方で取り組んでいる。水分、乳製品など多めに摂れるように献立に取り入れている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には、いつでもご希望に沿ってすぐ入れるように取り組んでいる。入浴剤の使用など、工夫して少しでも気持ちよく入れるように支援している。	利用者の希望により、何時でも、午後、365日入浴出来るよう支援しており、毎日入浴する利用者も居るが、平均して1日2~3名、1人週2~3回となっている。重度者には2人対応している。季節感を味わえる菖蒲湯や気分転換としての入浴剤なども取り入れて、入浴が楽しみとなるよう支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方のその日の様子により、又習慣を大事にして休息していただいたり、昼間のケアでレクなど楽しむことによりよく眠れるように支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の係りとお医者さんがよく話し合い、又薬局さんに助言いただいたりケアマネジャーに報告してカンファレンスを開いて話し合い、その方に適した服薬支援につとめている。		

外部評価結果(ニチイのほほえみ伊那)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ケアプランに沿った支援に努めている。その日の気分、様子により、できるだけ希望が叶うように支援につとめている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力により出かけたり、天気の良い日に散歩している。又季節ごとに出かけられるようにプランにもとりいれている。	事業所周辺の散歩、天候に応じての外気浴、買い物外出、高遠公園の花見や祭り見物、春日公園、紅葉狩り外出など気分転換や五感の刺激としての外出や季節に応じての外出など、出来るだけ戸外に出かけられるよう支援している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には個人のお金は持ち込めないことを理解いただいている。その方より持っているときもあるが、職員が見守り管理させていただいている。ほしいものがあるときは、一緒に買い物に行ったり家族と買いに行っていたりしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望・意向に耳を傾け、自分らしく生活して頂ける様支援している。又手紙、電話が自由にできるので、ご希望通りにしていただけるように支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに、生け花、飾りつけなどを変えて又掃除にも気を配っている。	居間・食堂・台所が一体のフロアとなり、調理の音や匂いが感じられ、畳の部屋、ウッドデッキがあり、採光もよく、騒音もなく、整理整頓が行き届いていた。周囲の壁には季節感を取り入れたブドウや栗などの飾り物があり、利用者の作品が飾られ、懐かしさや利用者の思いが取り入れられた暮らしが感じられた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	常にお客さまの様子を見ながら希望を伺いながら居場所づくりの工夫に努めている。		

外部評価結果(ニチイのほほえみ伊那)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居時に、使い慣れた物を持ってきていただき馴染みのものに囲まれ、少しでも安心して過ごせるように工夫している。	居室は収納スペース以外は全て、利用者ご家族の思い思いの馴染みの物を配置できるようになっており、ベッド・寝具・物入れ・位牌・写真・飾り物が置かれ、自宅で暮らしていた環境に近い居室作りが出来ていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の出入り口にお名前を書いて貼り「わかること」を活かしている。使い勝手の悪い部分は、職員の声かけや介助により安全に過ごしていただけるように努めています。		